

## 文化財報告

### 構造調査・クリーニングから得られた調査成果 ( )

#### - 金属質遺物の形状変更 -

(財)福島県文化振興事業団遺跡調査部 奥山誠義

### 文化財データベースについて

#### - その2 遺物データベースについて -

福島県文化財センター白河館 藤谷 誠

# 構造調査・クリーニングから得られた調査成果 ( )

## - 金属質遺物の形状変更 -

奥山 誠 義

(財)福島県文化振興事業団遺跡調査部では、福島県教育委員会より委託を受け進めている文化財センター整備事業において出土品劣化防止業務を実施している。金属質遺物の劣化防止業務の中で行われているクリーニング作業等において、発掘調査報告書に記載されている形状との差異が見られる遺物が確認できたため、その調査成果を報告する。

### 1 経 過

小稿にて提示する資料はいずれも20年以上前に発掘調査され様々な環境で保管されてきた資料である。発掘後さびを帯びた状態で保管されてきた遺物に対し、より適正な保管を行うことを目的として、現在、X線透過写真撮影による構造調査と遺物表面に付着する錆や腐食を促進する因子を取り除くクリーニング作業を行っている。

### 2 調査作業内容

#### 1) 構造調査

一部の遺物については、おおその形状と構造を把握するためX線透過写真の撮影を行った。撮影には東北芸術工科大学文化財保存修復研究センターに御協力いただいた。

#### 2) クリーニング作業

実体顕微鏡による表面観察の後、クリーニング作業を実施した。クリーニングには、エアーブラシやグラインダー、彫刻刀等を利用した。必要に応じて実体顕微鏡下でもクリーニングを行った。

### 3 形状変更となった資料

以下の4点(表1)について形状が変更となった。報告書掲載の実測図を図1に示す。また、クリーニングを実施する前の資料の状態を図2に示す(一部除く)。

表1 対象資料の所見

対象資料名	報告書名	遺跡名	挿図番号	報告書記載の特徴
鍔	母畑地区遺跡発掘調査	早稲田古墳群	46図15墳17	象嵌無し
鉄鏃	東北新幹線関連発掘調査	矢ノ戸遺跡	15図9	細根式三角形型
刀子	東北新幹線関連発掘調査	矢ノ戸遺跡	44図11	刀子の一部
角形鉄製品	東北新幹線関連発掘調査	矢ノ戸遺跡	48図7	角釘の一部か?

## 4 調査結果

詳細な調査経過等を資料毎に整理し、作業後の実測図を図3に記載した。また、調査結果を表2にまとめた。

早稲田古墳群出土鐔（以下鐔と称す）については、平成7年度にクリーニングを行った。矢ノ戸遺跡出土の角形鉄製品（角釘と思われる遺物、以下角形鉄製品と称す）、刀子（以下刀子と称す）、鉄鏃（以下鉄鏃と称す）は平成14年度のクリーニング実施である。

### 1) 鐔

鐔はX線透過写真撮影が行われていない。全体を錆が覆っており外形しか観察できなかった。これについては手探りでのクリーニングの結果、表面および側面に銀色に輝く象嵌が現れた。X線分析顕微鏡（株堀場製作所製 XGT-2700）による蛍光X線分析の結果、象嵌部分は銀、地金は鉄であることが判明した。鉄地銀象嵌の鐔であった。

### 2) 鉄 鏃

鉄鏃は全体が錆で覆われていた。X線透過写真撮影を行ったところ金属の残存状態が良好であった（図5）。実体顕微鏡による表面観察では錆や土壌などの付着物以外のものは発見されなかった。また、非常に強固な錆を形成していることも分かった。

X線透過写真を読み解くと、一見、先端が菱形状を呈しているように見受けられるが、実際に実体顕微鏡下で観察を進めながら、クリーニングを進めた結果、先端の菱形状部分の多くは、土壌を巻き込んで強固に固着した錆であることが分かった。発掘調査直後は地金と判断されたものと思われる。

クリーニングにより報告書記載とは異なる形状を現し、先端に向けて細みを帯び、角形の断面を持つ角釘状の製品であることが判明した。

### 3) 刀子

刀子は全体を錆が覆っていたが、X線透過写真撮影を行ったところ、金属の残存状態が良好で一端にカーブを描く部位が観察された。実体顕微鏡による表面観察では錆や土壌などの付着物以外のものは発見されなかった。

X線透過写真を基にクリーニングを進めた結果、刀子の先端と思われる形状となった。本遺物については結果的には刀子であることに変わりはないが、属する部位が変更されるものと思われる。

### 4) 角形鉄製品（報告書では角釘と思われる遺物）

角形鉄製品は全体を錆が覆っていた。X線透過写真撮影を行ったところ金属の残存状態が良好であり、一部に突起を持つことが確認された（図5）。実体顕微鏡による表面観察では錆や

土壌などの付着物以外は何も発見されなかった。

X線透過写真を基にクリーニングを進めた結果、図3のような形状になった。製品の一部分のみであり製品が何であるかを特定することは困難であるが、同一遺構から紡錘車が出土していることを考慮すると、その一部ではないかと思われる。

表2 調査結果

対象資料名	報告書記載の特徴	クリーニングの結果	変更後の資料名
鍔	象嵌無し	銀象嵌が出現した。	鉄地銀象嵌の鍔
鉄鏃	細根式三角形型	先端が平坦。全体が湾曲。	角釘状の製品か？
刀子	刀子の一部	曲線を描く箇所が出現した。	刀子先端
角形鉄製品	角釘の一部か？	2箇所の突出部が出現した。	紡錘車の一部か？

## 5 おわりに

発掘によって出土する金属質遺物は、土壌や錆により本来の形状が判断できないことが多い。このような場合、土壌や錆に隠れた情報を破壊することなく引き出すことができるのは、非破壊検査として用いられているX線透過写真の撮影である。X線透過写真の撮影により形状のみならず、構造等を十分に把握でき、遺物の持つ情報をより多く引き出すことができるものと考ええる。

本稿に提示した資料はクリーニングを終えたのみで、資料に内在する腐食を促進する因子を取り除く「脱塩処理」や外気との接触を断つための「樹脂強化処理」は行われていない。現在、保存処理を行うに十分な施設・設備が整っていないため、現状では腐食の進行を抑制するため脱酸素雰囲気の中に封入しておかなければならない。従って、現時点では脱酸素剤を封入した特殊な密閉環境で保管し、その環境を維持した状態でのみ展示、閲覧が可能である。これらの資料については今後、保存処理が行える環境が整い次第速やかにその処理を施すことになる。

最後になりましたが、X線透過写真撮影に御協力いただいた東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター、並びに松田泰典氏、松井敏也氏、手代木美穂氏に感謝の意を表します。

### 引用文献

1982 福島県教育委員会・(財)福島県文化センター 『国営総合農地開発事業母畑地区遺跡発掘調査報告』 福島県文化財調査報告集 107 集

1981 福島県教育委員会・日本国有鉄道 『東北新幹線関連遺跡発掘調査報告』 福島県文化財調査報告集第 99 集

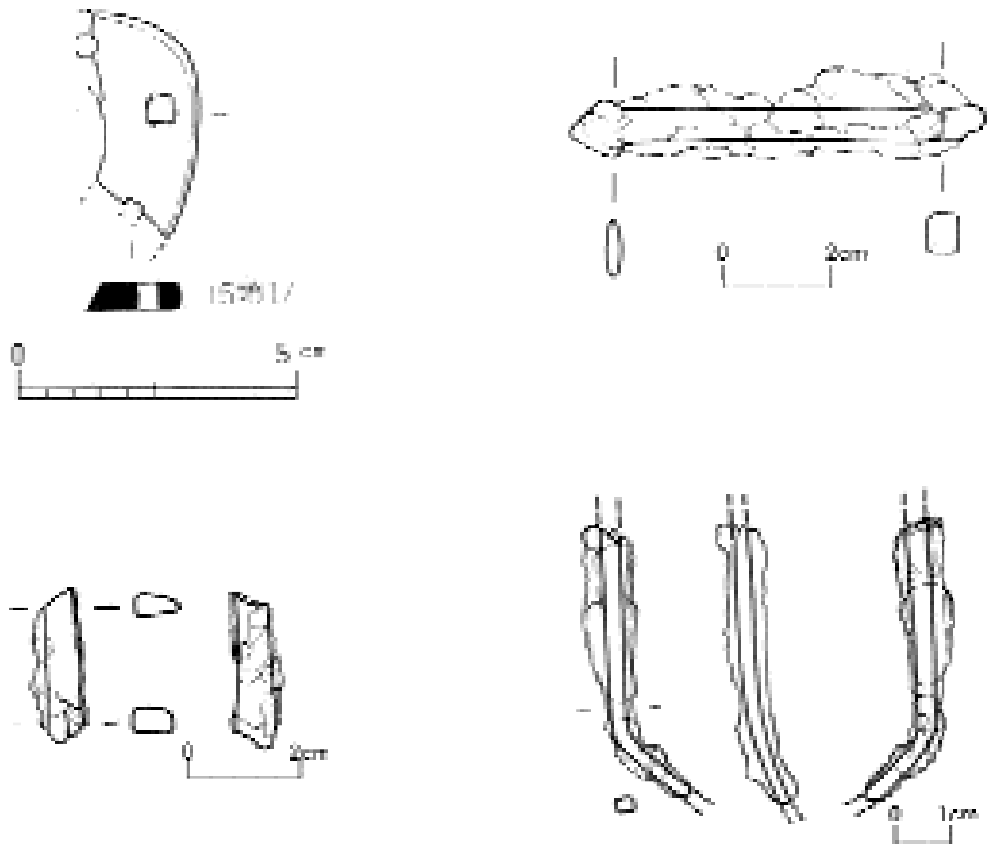


図1 報告書掲載実測図(引用文献(1)(2)より転載。一部スケール加筆)



図2 クリーニング前の状況(スケールは不同)

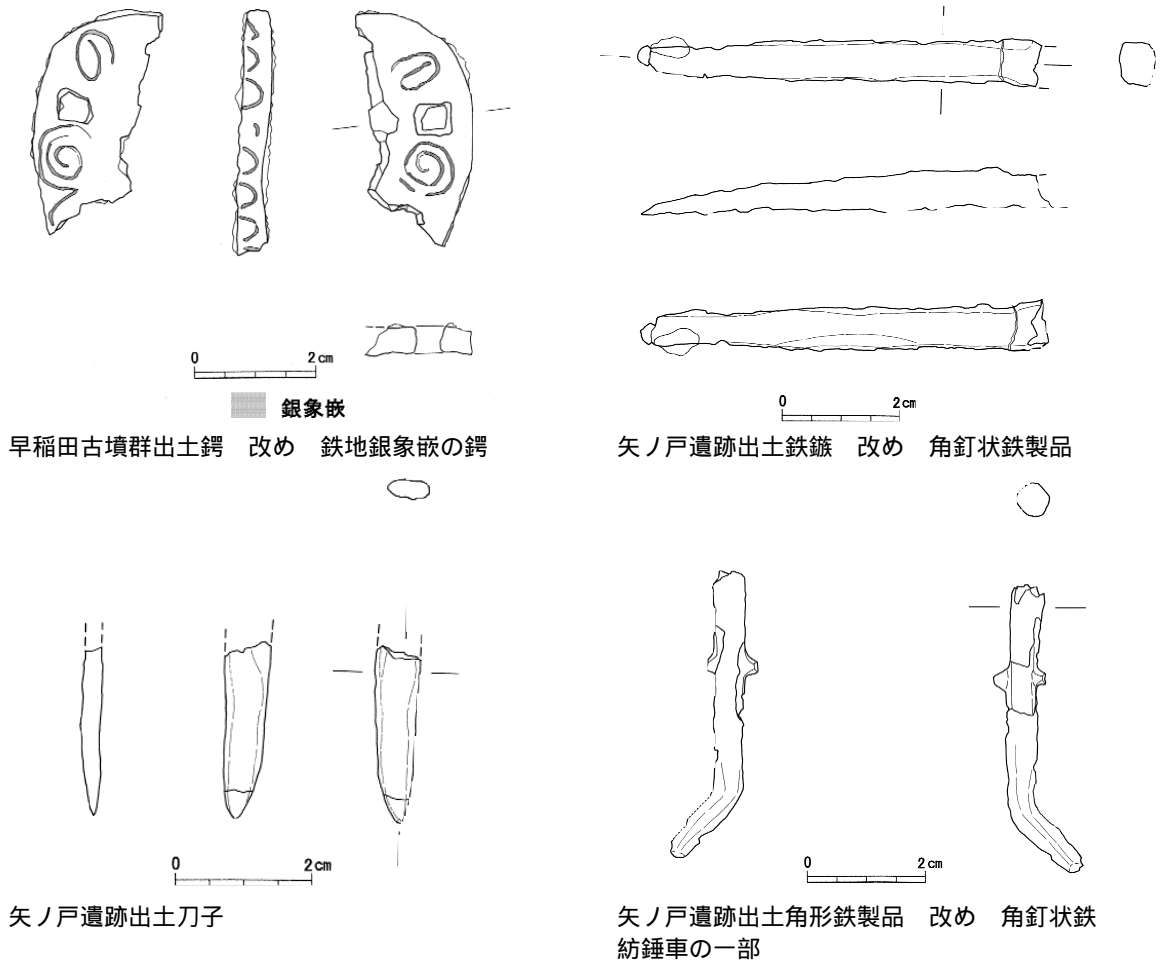


図3 クリーニング後の実測図(資料名は推定による名称。)



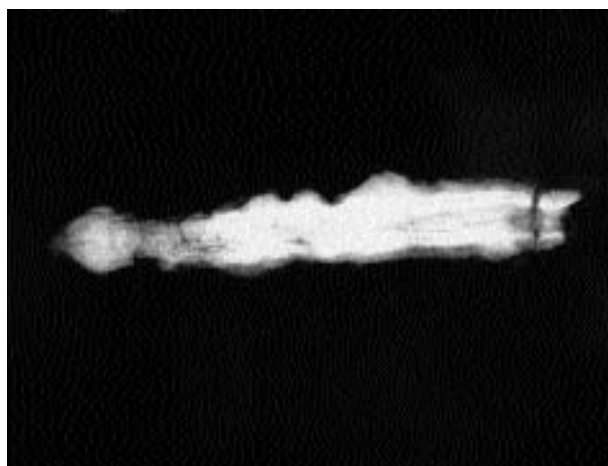
図4 クリーニング後の状況(資料名は推定による名称。スケールは不同。)



矢ノ戸遺跡出土刀子



矢ノ戸遺跡出土角形鉄製品  
(角釘と思われる遺物)



矢ノ戸遺跡出土鉄鍬

図5 クリーニング前のX線透過写真(スケールは不同)

# 文化財データベースについて

## - その2 遺物データベースについて -

藤 谷 誠

### 1 はじめに

福島県教育委員会が実施（含委託）した発掘調査によって得られた遺物資料は、平成 15 年 1 月現在、まほろんに平箱にして 3 万 8 千箱分が収蔵されている。これら膨大な数の遺物の管理を人的記憶を頼りとするには自ずと限界がある。これらの遺物を効率的に管理し、同時にその情報を公開するには、基本となる台帳を整備し、本格的なデータベースシステムを導入する必要があった。

遺物資料の公開については、発掘調査報告書で詳細が述べられているし、展示等で現物を展示することも可能であるので、あえてデータベース化を行わなくても十分ではといった考え方もあるかと思われる。しかしながら、報告書から必要な情報のみを取り出すにはかなりの労力があるし、また、展示公開については、地理的・時間的な制約から誰にでも広く門戸を開いているとは言えない。これらを解消するためには、現状ではインターネットを利用したデータベースシステムの公開が最も効率的と思われる。

遺物のデータベース化については、(財)福島県文化センター遺跡調査課（現 (財)福島県文化振興事業団遺跡調査部）の段階で、平成 6 年度頃から文化財データベース全体の中で検討を加え、平成 13 年のまほろん開館時に検索システムを公開している。これら公開までの経緯については、当館編集の 2001 年度年報に記載されている。

### 2 データベース化の範囲

遺物資料をデータベース化するにあたって、まずその範囲を策定した。台帳化する基本資料は、報告書に掲載されているものに限定した。報告書未掲載遺物も多数あるが、数値等の属性を抽出する現実的な手がかりがないため、範囲から除外してある。

また、遺物資料に付随する画像関係のデータとして、その実測図と写真を取り上げた。表の設計段階でそれらを取り込める仕様としてある。システム構築までに遺物実測図のデータは報告書に掲載されている図版から取り込んでおり、公開時には、一部が検索システムに反映させてある。

遺物写真については、整理作業での撮影の最終的な目標が発掘報告書への掲載であるため、巻頭カラー写真として掲載したものを除いて、そのほとんど全てがモノクロ写真となっている。したがって、既存のこれらの遺物写真についてはデータベースに取り込む資料とはしなかった。現在、カラー写真画像については、当館にて代表的なもの（完形品）について撮影を継続して実施している。来年度、遺物データベースから独立した遺物写真検索システムとして公開する予定である。



### 3 データベースの機能

データベースの機能として、まず収蔵遺物資料の管理機能を持たせた。そこでは、時期・名称・計測値などの基礎的な情報以外に、収蔵場所の情報・欠落の情報等を持たせ、貸し出し・閲覧情報とリンクさせることによってその機能を実現させている。

また、メインの機能として、インターネットを利用しての情報公開の機能がある。情報公開の機能の中の特色として、検索表示結果の表計算データとしての出力が可能な機能（画像と表の情報）と、リレーショナルデータベースの特質を生かした他の遺跡データとのリンク機能がある。これらの機能は、他の遺跡データベースや写真データベースと同様なものとなっており、本データベースを特徴づけるものである。

### 4 入力元データと入力方法

遺物データベースの一番大きな入力元データとなっているのは、県教委発行の発掘調査報告書である。発掘調査報告書は各年度に整理作業が終了した遺跡のものが各事業単位に発行されており、平成 15 年 1 月現在、試掘調査を入れた県教委発行の発掘調査報告書は 250 冊以上に及んでいる。また、これ以外の収納関係のデータ（平箱種類・収蔵場所）は、平箱に付いているカードを元にして入力している。

これら入力元資料からの入力は、基本的に（財）福島県文化振興事業団遺跡調査部の資料管理部門の臨時事務補助員の手によって行われている。入力項目の中で、時期や遺物名称等考古学的な判断が必要な部分については、担当専門職員がチェックを行っている。

テキスト系の基礎データの輸入は表計算ソフトを利用して、入力を行い、CSV ファイルとして保存している。

実測図関係の画像データ輸入は、市販のフラットベットスキャナーを利用して取り込んでおり、取り込み時のゴミや階調の不具合などを画像処理ソフトを利用して修整し、高解像度の JPEG ファイルとして保存している。

また、遺物のカラー写真については、平成 14 年 2 月から、白河館でデジタルカメラ NikonD1 を利用して担当の指導の下に臨時事務補助員が遺物の現物を元にした撮影を行なっている。データベース化されている遺物の総点数は 20 万点を超えており、全てのカラー写真を撮影することは労力的にもシステムのにも無理がある。そのため、最初、完形品の土器類、次に完形品の定形石器類と見栄えのする資料を当面の撮影対象とした。撮影されたデータは、画像処理ソフトでリサイズして 3 種類の解像度で高解像度 JPEG 画像ファイルとして保存しており、同時に遺物の元表データにも必要項目を追加している。

データベースソフト本体への入力は、各種データの点検を行い、必要な箇所に修正を加えた後、データ白河館にて担当がデータベース入力システムを利用して直接行っている。データベース入力システムでは、入力時に各表のリレーションシップが点検され、これに合致しなかったデータについては、再度出力される。

## 5 表の構成 (別表参照)

### 1) 遺物基本表

遺物基本表は、26の項目から構成されている。プライマリーキー（一意キー）としては遺物コードをあて、入力した順番に数値を割り振っている。基本表の項目は、遺物の属性に関する項目、出土・掲載情報に関する項目、管理的なデータに関する項目に分けられる。

遺物の属性に関する項目には時期・名称・種別がある。時期関係の属性は、遺物の時期の上限と下限の双方を設定した。データベースの初期検討段階では、入力項目は1時期のみとしたが、実際に入力を行っていくと1時期にのみ当てはまらない年代観が微妙な遺物も出てきたため、急遽2時期に分割した。時期コード部分は、他のデータベースと同じコード化を行っており、検索時の時期選択の手がかりとなっている。遺物名称・種別のうち、種別についてもコード化を行っており、検索画面の時期選択の手がかりとなっている。

出土・掲載情報に関する項目には、報告書での掲載図の情報や出土遺構や層位の情報があり、遺構についてはコードによる入力項目も取り入れている。

管理的なデータに関する項目には、遺物の収納場所に関する情報（平箱コード、棚番号）、画像関係のリンク位置に関する情報、遺跡や文献に関するリンク情報がある。画像関係のリンク情報は、データベースサーバー内での画像ファイルの相対位置がわかるファイル名称の情報である。システム上では、この情報を手がかりとして、検索結果に画像を表示したり、ダウンロードが可能となっている。

### 2) 数値関係の表

数値関係の表については、遺物の種類によって計測値が異なるため、表の正規化を進める過程で、収蔵遺物のカテゴリーにある程度対応する表を4つ作成した。各表ともプライマリーキーは遺物コードとなっている。

土器数値表は、土器の基本的な計測値である、口径・底径・器高等の数値からなる。石器基本表は、長さ、幅、厚さ、材質等の数値からなる。数値汎用表は、長さ、幅等の数値からなり、土器や石器に当てはまらない木製品・鉄製品等を念頭において作った。また、当館に収蔵されている遺物資料の中には、かなりの量の羽口類が含まれているところから、一般的な数値汎用表とは別に羽口基本表を作った。

### 3) その他の表

その他の表は管理的なデータが格納されている。大きくは収納場所関係の平箱基本表、遺物所在表と貸し出し関係を管理する項目がある。遺物表本体と別表とした基準は、データベース格納後にデータの変動があるかどうかとした。遺物データベース自体が検索タイプのデータベースシステムであり、格納したデータの変動は最小限に留めたかったため、正規化の過程で別表とした。

## 6 画像関係の仕様

### 1) 遺物実測図

発掘調査報告書から取り込んだ、実測図画像は以下の二つの解像度から構成される

画面表示用：425 ピクセル× 425 ピクセル

印刷用：1181 ピクセル×1181 ピクセル

これは、画面表示 (72 dpi) とインクジェットプリンタ (200 dpi) でだいたい 12 cm角の表示印刷が可能となることを前提としたものである。本来、画像ごとにスケールを入れた方が、利用者にとってはよりわかり易いと思われるが、入力時の労力の問題から断念した。

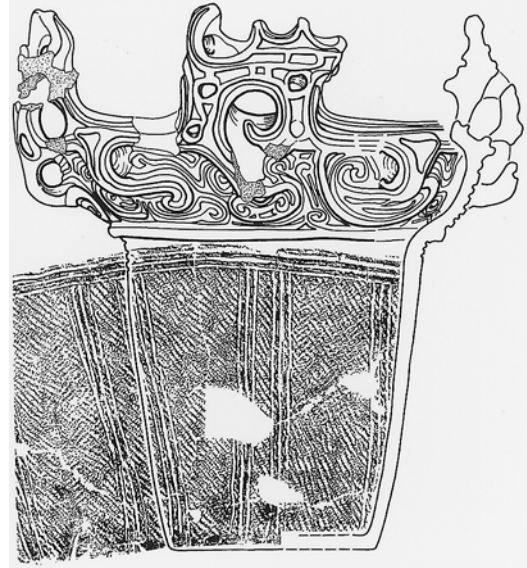


図1 印刷用遺物実測画像 (400dpi)

### 2) 遺物写真

遺物写真については、デジタルカメラで撮影しているため、フィルムを介さずにデジタルデータとして取り込むことが可能である。当初、画面表示用1、印刷用1として表の項目に入れたが、サムネイル方式の表示スピードを向上させるため、低解像度の画像を新たに加えた。

画面表示用1 (サムネイル用)：100 ピクセル× 66 ピクセル

画面表示用2 (一般表示用)：600 ピクセル× 394 ピクセル

印刷用：2000 ピクセル× 1312 ピクセル

文化財関係のサイトで遺物写真を掲載しているサイトはあるが、印刷品質の画像提供を実施

しているところは、著作権の問題もあり、ほとんどないと思われる。当館では、文化財に対する理解を積極的に進める意味で、学校教育での教材への利用、展示図録写真への利用、個人での私的利用を想定して、印刷サイ



写真1 印刷用遺物写真画像 (400dpi)

ズの画像の提供についても想定している。来年度、遺物写真検索・提供システムとして公開する予定である。

## 7 コード化した分類項目（別表参照）

遺物データベースの中で属性を分類するためにコード化した項目は、時期・種別・遺構の各コードである。このうち、時代コードと遺構コードについては、前回遺跡データベースの項目で紹介してあるので、今回は省略したい。

遺物の種別のコード（遺物コード）は、特に遺物の検索システムの中で、遺物名称からだけでなく遺物の種別から目標のものを探す場合に、有効な手段となる。

遺物コードは基本的に6ケタの数字コードで構成されている。分類項目は大分類、中分類、小分類の3つとし、それぞれ上2ケタ、中2ケタ、下2ケタに対応している。大分類項目は、主に材質を基準として、土器、土製品、石器、石製品、鉄製品、金銅製品、木質遺物、貝・骨角製品、ガラス製品、その他の遺物9つに分類した。それぞれ以下に中分類項目がある。さらに下位にある小分類の項目は具体的な遺物名称と対応する形となっている。実際のデータベース検索システムでは、大分類と中分類を組み合わせで選択項目としている。

たとえば、縄文土器は分類コード100000～101099であるので、縄文土器に該当する遺物基本表にある全ての情報が必要な場合には、

```
SELECT * FROM IBT_IBUTSU WHERE SYUBETSUCODE BETWEEN 100000 AND 101099
```

今回は、別表として遺物コードを別表に掲載してある。紙面の関係上、大項目土器の一部についてのみ、小項目まで全て取り上げた。

## 8 検索システムの概要

遺物の検索システムの画面の構成は以下となっている。

検索条件入力画面 検索結果画面（表） 詳細情報表示画面 出力用画像ダウンロード  
遺跡データベースへ

検索条件入力画面では、遺物種類、名称、時期、遺跡名、掲載報告書名、出土地点、数値等を入力項目としている。数値項目では、それぞれ遺物の種類ごとに、入力数字以上、以下と $\pm 3$  cm以内の3つの項目を選択可能とした。

検索結果画面（表）では、検索にかかったデータの最小項目のデータを表形式で閲覧可能にし、この画面で、検索結果データの詳細項目をCSVファ

写真2 遺物データベース検索画面

イルとしてダウンロード可能とした。

詳細情報表示画面では、名称・時期や出土した場所、報告書での掲載位置のほかに、実測図画像が取り込まれているものに関しては、こちらで表示するようにした。また、印刷品質の実測画像がダウンロード可能な場所もこちらとなっている。さらに、この画面からは、リレーショナルデータベースの特徴を生かして、遺物の出土した遺跡データのページにもリンクが可能となっており、そちらのページを閲覧することができる。

また、遺物データベース検索システムの特徴として、検索の URL を表示するタイプのデータベースであることがあげられる。これによって、たとえば、収蔵資料展を Web 上に紹介した場合、文化財 DB の遺物データベースの詳細表示項目を利用して収蔵品の紹介を行うといった使い方が可能となる。

遺物データベース検索の対象表については、各表を直接参照していない。検索対象表を 1 つの表として簡略化するため、それから必要項目を組み込んだ検索用の表を新規合成して、その表を検索対象表としている。

## 9 課 題

### 1) 検索スピードの問題

遺物データベースでは特に検索対象件数が多い (約 20 万件) ところから、検索結果表示までの時間がかかる点が大きな課題と言えるであろう。公開されている文化財関係のデータベースと比較しても当館の遺物データベースの検索スピードはかなり遅い状況にある。現在、UNIX サーバー (CPU:SUNSPARC の 1 CPU + 110 GB) で運用しており、スペック的に検索対象件数については限界に近いかもしれない。平成 16 年度がこのサーバーのリース切り替え時期にあたるので、更に高性能な CPU を複数もったサーバにスペックアップすることによって、検索反応時間を改善する必要があると考える。

### 2) 画像データについて

現在公開している画像データは、遺物実測図の破片を除く資料の一部のみであり、破片資料は入力していない。しかし、縄文土器や瓦の資料等、破片資料であっても資料価値の高いものも収蔵資料の中には含まれている。これらの取り扱いについて、再度検討する余地が残されていると思われる。また、写真については、完形品資料から優先して撮影を開始したが、これについても実測図画像と同様に、それ以外の膨大な資料についての取り扱いを再度検討する必要

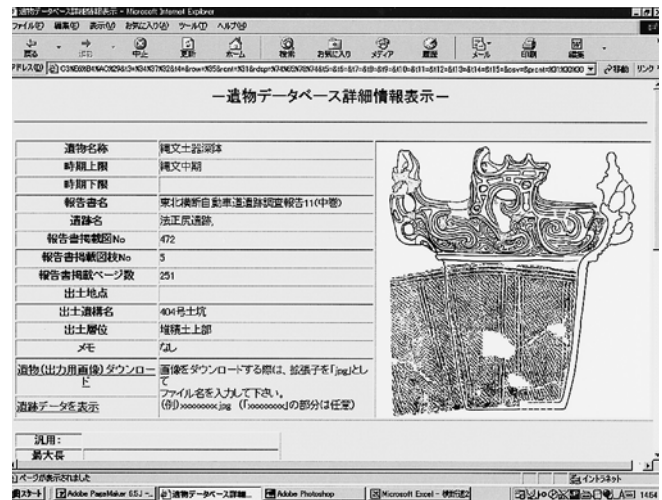


写真 3 遺物データベース詳細情報表示画面

があると思われる。

### 3) 遺物の時期

また、遺物の時期や名称等の専門的な部分については、各調査員によって見解が分かれる遺物資料も存在している。現況では、入力している報告書に記載された情報を元に入力処理しており、コード化した項目である程度対応可能と思われるが、各コード細部については更に検討の余地が残されていると思われる。

## 10 おわりに

発掘調査によって得られた遺物資料は、発掘調査報告書作成に向けた整理作業の中で選別・分類され、一部は写真撮影・実測されて発掘調査報告書に掲載される。報告書が刊行された後、遺物資料は収蔵あるいは保存処理され、必要に応じて展示・閲覧に利用される。遺物データベースは、報告書刊行後に発掘調査報告書を元に入力され生成された文化財情報である。

発掘調査によって得られる資料には、現地での出土物である遺物や記録の成果物である写真・図面等の1次資料、さらにその成果をまとめた発掘調査報告書等の2次資料がある。遺物データベースは2次資料を元に入力されたいわば3次的な資料である。1次資料(特に遺物資料)については、国民共有の財産として一般に広く認識されている。しかし、1次資料だけでなく、2次資料、さらには3次的な文化財情報についても貴重な国民共有の財産であると捉えることができ、本来、広く国民に公開される性質のものと言えよう。

今後、ネットワークインフラの整備に伴って、デジタル化された情報は広く家庭や学校に浸透することが予想される。データベース等のデジタル化された文化財情報は、このようなインフラを利用して広く国民に公開することが可能であり、文化財の活用フェイズの中でますます重要な位置を占めていくと予想される。

### 引用・参考文献

- 2001 福島県文化振興事業団「福島県文化財センター白河館のホームページ」<http://www.mahoron.fks.ed.jp>
- 2001 藤谷 誠 「文化財データベースについてーその1基本構造と遺跡データベースについて」『福島県文化財センター白河館研究紀要 2001』354～366 ページ
- 2001 藤谷 誠 「第3章事業の概要5 情報発信について」『福島県文化財センター白河館年報 2002』90～92ページ

## データベースファイル規定書

テーブル名	遺物基本
システムテーブル名	IBT_IBUTSUKIHON

識別キー	遺物コード
------	-------

	列の内容	システム列名	データタイプ	制 約	備 考
1	遺物コード	IBUTSUCODE	NUMBER	PK	
2	遺物の種別コード	SYUBETSUKODE	NUMBER	NOT NULL	
3	遺物の名称	IBUTSUMEI	VARCHAR2 (30)	NOT NULL	
4	時期 (上限)	JIKIUE	VARCHAR2 (20)		
5	時期 (下限)	JIKISHITA	VARCHAR2 (20)		
6	時期コード (上限)	JIKICODEUE	NUMBER		
7	時期コード (下限)	JIKICODESHITA	NUMBER		
8	報告書掲載図	KEISAIZUNO	NUMBER		
9	報告書掲載図枝	KEISAIZUEDANO	VARCHAR2 (20)		
10	報告書掲載ページ数	KEISAIZUPAGE	NUMBER		
11	出土地点	SYUTSUDUCHITEN	VARCHAR2 (20)		
12	出土遺構名	SYUTSUDOIKOUMEI	VARCHAR2 (40)		
13	遺構コード	IKOUCODE	NUMBER		
14	出土層位	SYUTSUDOISOU	VARCHAR2 (40)		
15	平箱コード	HIRAHAKOCODE	NUMBER	FK	
16	棚番号	TANABANGOU	VARCHAR2 (40)		
17	画面用実測図コード	GAMENJISSOKUZUCODE	VARCHAR2 (50)		
18	印刷用実測図コード	INSATSUJISSOKUZUCODE	VARCHAR2 (50)		
19	画面用写真コード	GAMENSYASHINCODE	VARCHAR2 (50)		
20	印刷用写真コード	INSATSUSYASHINCODE	VARCHAR2 (50)		
21	調査台帳コード	DAICYOUCODE	NUMBER	FK	
22	掲載報告書シリーズ名	SHIRIIZUMEI	VARCHAR2 (40)		
23	掲載報告書名	HOUKOKUSYOMEI	VARCHAR2 (80)		
24	文献コード 2	BUNKENCODE2	NUMBER	FK	
25	メモ	MEMO	VARCHAR2 (200)		
26	出力用写真コード	SYUTSURYOKUSYASHINCODE	VARCHAR2 (50)		
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					

## データベースファイル規定書

テーブル名	土器数値
システムテーブル名	IBT_DOKISUUCHI

識別キー	遺物コード
------	-------

	列の内容	システム列名	データタイプ	制 約	備 考
1	遺物コード	IBTSUCODE	NUMBER	PK	
2	遺物の種別コード	SYUBETSUCODE	NUMBER	NOT NULL	
3	口径	KOUKEI	NUMBER		単位mm
4	底径	TEIKEI	NUMBER		単位mm
5	器高	KIKOU	NUMBER		単位mm
6	胴部最大径	DOUBUSAIDAIKEI	NUMBER		単位mm
7	遺存率	IZONRITSU	NUMBER		単位 g
8					
9					
10					
11					
12					
13					

## データベースファイル規定書

テーブル名	石器数値
システムテーブル名	IBT_SEKKISUUCHI

識別キー	遺物コード
------	-------

	列の内容	システム列名	データタイプ	制 約	備 考
1	遺物コード	IBTSUCODE	NUMBER	PK	
2	遺物の種別コード	SYUBETSUCODE	NUMBER	NOT NULL	
3	長さ	NAGASA	NUMBER		単位mm
4	基部幅	KIBUHABA	NUMBER		単位mm
5	最大幅	SAIDAIHABA	NUMBER		単位mm
6	最大厚	SAIDAIATSU	NUMBER		単位mm
7	重量	JYUURYOU	NUMBER		単位 g
8	石質	ISHISHITSU	VARCHAR2(20)		
9					
10					
11					
12					
13					



## データベースファイル規定書

テーブル名	羽口数値
システムテーブル名	IBT_HAGUCHISUUCHI

識別キー	遺物コード
------	-------

	列の内容	システム列名	データタイプ	制 約	備 考
1	遺物コード	IBTSUCODE	NUMBER	PK	
2	遺物の種別コード	SYUBETSUCODE	NUMBER	NOT NULL	
3	吸気部内径	KYUUKIBUNAIKEI	NUMBER		単位mm
4	吸気部外径	KYUUKIBUGAIKEI	NUMBER		単位mm
5	先端部内径	SENTANBUNAIKEI	NUMBER		単位mm
6	最大長	SAIDAICYOU	NUMBER		単位mm
7	装着角度	SOUCYAKUKAKUDO	NUMBER		単位°
8					
9					
10					
11					
12					
13					

## データベースファイル規定書

テーブル名	数値汎用
システムテーブル名	IBT_SUUCHIHANYOU

識別キー	遺物コード
------	-------

	列の内容	システム列名	データタイプ	制 約	備 考
1	遺物コード	IBTSUCODE	NUMBER	PK	
2	遺物の種別コード	SYUBETSUCODE	NUMBER	NOT NULL	
3	最大長	SAIDAICYOU	NUMBER	5	単位mm
4	最大幅	SAIDAIHABA	NUMBER	5	単位mm
5	最大厚	SAIDAIATSU	NUMBER	5	単位mm
6	重量	JYUURYOU	NUMBER	5	単位g
7	材質	ZAISHITSU	VARCHAR2(20)	20	
8					
9					
10					
11					
12					
13					

## データベースファイル規定書

テーブル名	平箱基本
システムテーブル名	IBT_HIRAHAKOKIHON

識別キー	遺物コード
------	-------

	列の内容	システム列名	データタイプ	制 約	備 考
1	平箱コード	HIRAHAKOCODE	NUMBER	PK	
2	遺跡内通し平箱	ISEKINAIHIRAHAKONO	NUMBER		
3	報告書掲載の有無	HOUKOKUSYOKEISAI	NUMBER		1で掲載
4	調査台帳コード	DAICYOUCODE	NUMBER	FK	
5	平箱の形状	KEIJYOU	NUMBER		
6	文献コード2	BUNKENCODE2	NUMBER	FK	
7	棚番号	TANABANGOU	VARCHAR2(40)		白河館棚の番号
8					
9					
10					
11					
12					
13					

## データベースファイル規定書

テーブル名	遺物所在
システムテーブル名	IBT_IBUTSUSYOZAI

識別キー	遺物コード
------	-------

	列の内容	システム列名	データタイプ	制 約	備 考
1	遺物コード	IBUTSUCODE	NUMBER	PK	
2	保存処理コード	HOZONSYORICODE	NUMBER		1で処理中
3	紛失コード	FUNSHITSUCODE	NUMBER		1で紛失
4	移管コード	IKANCODE	NUMBER		1で移管済み
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					

## 遺物コード表

大項目	中項目	小項目	コード	備考
土器 (10)	縄文土器 (1001)	蓋	100101	粗製・精製
		壺	100102	
		皿	100103	
		深鉢	100104	
		浅鉢	100105	
		鉢	100106	
		注口・片口付土器	100107	
		異形	100108	
		製塩	100109	
		ミニチュア	100110	
	その他	100100		
	弥生土器 (1002)	蓋	100201	「手捏ね土器」含む
		高杯	100202	
		壺	100203	
		甕	100204	
		深鉢	100205	
		鉢 (浅鉢)	100206	
		注口・片口付土器	100207	
		筒形	100208	
		ミニチュア	100209	
		その他	100200	
	土師器 (1003)	蓋	100301	ロケ口整形は備考記入・墨書記入 高台有無備考 黒色処理の有無は備考  底部穿孔は備考記入 台付、大中小甕の別記入  「手捏ね土器」含む
		杯	100302	
		碗	100303	
		皿	100304	
		耳皿	100305	
		高杯	100306	
		器台	100307	
		小型壺	100308	
		壺	100309	
甕		100310		
はそう		100311		
甌		100312		
筒形		100313		
鍋		100314		
鉢		100315		
羽釜		100316		
ミニチュア		100317		
高台杯		100318		
その他		100300		
須恵器 (1004)	蓋他21項目	100400 ~		
土師質土器 (1005)	蓋他20項目	100500 ~	「かわらけ」を含む	
陶器 (無釉) (1006)	蓋他18項目	100600 ~		
陶器 (施釉) (1007)	碗他19項目	100700 ~	釉の種類備考	
磁器 (染付) (1008)	碗他11項目	100800 ~		
磁器 (青白磁) (1009)	蓋他 9 項目	100900 ~		
瓦質土器 (1010)	碗他12項目	101000 ~		
土製品 (20)	窯道具 (2001)	焼台他 2 項目	200100 ~	
	瓦 (2002)	丸瓦他 8 項目	200200 ~	
	玩具 (2003)	サイコロ他 4 項目	200300 ~	
	漁撈具 (2004)	土錘他 1 項目	200400 ~	

大項目	中項目	小項目	コード	備考	
土製品 (20)	祭祀・信仰具 (2005)	土版他 7 項目	200500 ~		
	装身具等 (2006)	耳栓他 2 項目	200600 ~		
	玉類 (2007)	勾玉他 5 項目	200700 ~		
	調理具・調度品 (2008)	支脚他 3 項目	200800 ~		
	埴輪 (2009)	特殊器台他10項目	200900 ~		
	紡織具 (2010)	紡錘車他 2 項目	201000 ~		
	模造品 (2011)	工具形他 7 項目	201100 ~		
	冶金関連 (2012)	鑄型他 6 項目	201200 ~	獣脚型等備考	
	その他 (2013)	スタンプ状他 5 項目	201300 ~		
石器 (30)	石器 (3001)	石包丁他30項目	300100 ~	「未製品」備考に記入	
	剥片等 (3002)	石核他 1 項目	300200 ~	石器のものに限定	
石製品 (40)	漁撈具 (4001)	石錘他 2 項目	400100 ~		
	工具 (4002)	砥石他 1 項目	400200 ~		
	建築材等 (4003)	礎石他 2 項目	400300 ~		
	祭祀・信仰具 (4004)	石剣他12項目	400400 ~		
	石棺 (4005)	石棺他 1 項目	400500 ~	家形当形状備考	
	装身具等 (4006)	耳飾他 4 項目	400600 ~		
	玉類 (4007)	管玉他 4 項目	400700 ~		
	調理具・調度品 (4008)	石臼他 8 項目	400800 ~		
	剥片等 (4009)	石核他 1 項目	400900 ~	石製品のものに限定	
	武器 (4010)	磨製石鏃	401000 ~	打製石鏃は「石器」へ	
	紡織具 (4011)	紡錘車他 2 項目	401100 ~		
	模造品 (4012)	工具形他 7 項目	401200 ~		
	冶金関連 (4013)	金床石他 1 項目	401300 ~		
	容器 (4014)	合子他 1 項目	401400 ~		
	用途不明品 (4015)	用途不明品	401501		
	その他 (4016)	その他	401600		
	鉄製品 (50)	漁撈具 (5001)	ヤス他 3 項目	500100 ~	
		工具 (5002)	ヤリガンナ他10項目	500200 ~	
建築材等 (5003)		釘	500301		
祭祀・信仰具 (5004)		半鐘他 7 項目	500400 ~		
装身具等 (5005)		金具他 1 項目	500500 ~		
調理具・調度品 (5006)		火打鎌他 2 項目	500600 ~		
度量衡 (5007)		分銅他 1 項目	500700 ~		
農具 (5008)		鋤先他 2 項目	500800 ~		
馬具 (5009)		轡他 6 項目	500900 ~		
武器 (5011)		鉄鏃他 5 項目	501100 ~		
武具 (5012)		冑他 3 項目	501200 ~	部品を含む	
紡織具 (5013)		紡錘車他 1 項目	501300 ~		
模造品 (5014)		工具形他 7 項目	501400 ~		
冶金関連 (5015)		鉄滓他 2 項目	501500 ~		
容器 (5016)		羽釜他 4 項目	501600 ~		
その他 (5017)		その他	501700		
金銅製品等 (60)		鏡 (6001)	銅鏡他 2 項目	600100 ~	
	工具 (6002)	その他	600200		
	祭祀・信仰具 (6003)	鐘他 7 項目	600300 ~		
	銭貨 (6004)	銭貨	600401		
	装身具等 (6005)	かんざし他 5 項目	600500 ~		
	玉類 (6006)	空玉他 1 項目	600600 ~		
	調理具・調度品 (6007)	箸他 2 項目	600700 ~		
	度量衡 (6008)	その他	600800		
	馬具 (6009)	轡他 6 項目	600900 ~		
	武器 (6010)	刀他 5 項目	601000 ~	刀は刀装具・柄頭のみの時	

大項目	中項目	小項目	コード	備考	
金銅製品等 (60)	武具 (6011)	胄他 3 項目	601100 ~	部品を含む	
	紡織具 (6012)	その他	601200		
	模造品 (6013)	工具形他 7 項目	601300 ~		
	冶金関連 (6014)	銅滓他 1 項目	601400 ~		
	容器 (6015)	碗他 6 項目	601500 ~		
	その他 (6017)	印章他 6 項目	601700 ~		
ガラス製品 (70)	装身具等 (7001)	垂飾他 1 項目	700100 ~		
	玉類 (7002)	管玉他 5 項目	700200 ~		
	調理具・調度品 (7003)	筆管他 1 項目	700300 ~		
	容器 (7004)	皿他 4 項目	700400 ~		
	用途不明品 (7005)	用途不明品	700501		
	その他 (7006)	ガラス滓他 1 項目	700600 ~		
骨角・牙・貝製品 (80)	漁撈具 (8001)	釣針他 3 項目	800100 ~		
	工具 (8002)	骨錐他 3 項目	800200 ~		
	祭祀・信仰具 (8003)	占骨他 1 項目	800300 ~		
	装身具等 (8004)	かんざし他 4 項目	800400 ~		
	玉類 (8005)	玉他 1 項目	800500 ~		
	武器 (8006)	弓部品他 3 項目	800600 ~		
	紡織具 (8007)	骨針他 1 項目	800700 ~		
	模造品 (8008)	工具形他 7 項目	800800 ~		
	用途不明品 (8009)	用途不明品	800901		
	その他 (8010)	その他	801000		
	木製品等 (90)	編物 (9001)	網代他 3 項目	900100 ~	
		紙 (9002)	漆紙	900201	文書有無備考
		玩具 (9003)	人形他 2 項目	900300 ~	
漁撈具 (9004)		たも他 3 項目	900400 ~		
建築材等 (9005)		井戸枠他 6 項目	900500 ~		
工具 (9006)		砧他 3 項目	900600 ~		
祭祀・信仰具 (9007)		絵馬他 3 項目	900700 ~		
漆器 (9008)		曲物他 6 項目	900800 ~		
装身具等 (9009)		かんざし他 4 項目	900900 ~		
調理具・調度品 (9010)		匙他 5 項目	901000 ~		
農具 (9011)		臼他 9 項目	901100 ~		
馬具 (9012)		鞍他 2 項目	901200 ~		
武器 (9013)		弓他 3 項目	901300 ~		
武具 (9014)		盾他 2 項目	901400 ~		
紡織具 (9015)		機織具他 3 項目	901500 ~		
布 (9016)		布他 1 項目	901600 ~		
模造品 (9017)		工具形他 7 項目	901700 ~		
木簡等 (9018)		木簡他 1 項目	901800 ~		
容器 (9019)		曲物他 7 項目	901900 ~		
その他 (9020)		琴他 4 項目	902000 ~		
自然遺物 (11)	植物遺存体 (1101)	種子他 4 項目	110100 ~		
	人骨 (1102)	人骨	110201		
	動物遺存体 (1103)	貝殻他 6 項目	110300 ~		
	アスファルト (1104)	アスファルト	110401		
	漆 (1105)	漆	110501		
	顔料 (1106)	朱他 2 項目	110600 ~		
	原石・原料 (1107)	砂鉄他 3 項目	110700 ~		
	その他 (1108)	その他	110800		
その他 (12)	その他 (1201)	その他	120100		

福島県文化財センター白河館  
研究紀要 2002

